

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（1）

（00091）

事務事業名称		アニメの振興と活用				款	03	項	05	目	01	事業	003	整理番号	102		
現担当課名		産業振興センター		係名		観光係		連絡先電話番号		5347-9184		昨年度整理番号		099			
上位施策No・施策名										06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり		予算事業区分		既定事業			
事務事業の概要	事業開始		平成12年度		実行計画事業		目標 02		施策 06		計画事業 05		主要事業（区政経営報告書掲載事業）				
	平成29年度担当課名		産業振興センター										事業評価区分 一般				
	対象		区民、区外来場者、商店街関係者、アニメ産業関係者				根拠法令等		(1)		杉並区立杉並会館条例						
									(2)		杉並区公式アニメキャラクター使用取扱要綱						
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）		区内アニメ制作会社のアニメコンテンツや区公式アニメキャラクター「なみすけ」等を活用し、商店街等の活性化やにぎわいの創出を図る。				活動指標		指標名（1）		アニメーションミュージアムの年間開館日数						
										指標説明		「なみすけ」等の着ぐるみ延使用日数					
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）		アニメーションミュージアムを運営する。アニメを活かした商店街等の振興を図る。区公式アニメキャラクター「なみすけ」のPRと、使用料の無償化による商用利用を促進する。				成果指標		指標名（1）		アニメーションミュージアムの年間来場者数							
										指標説明		「なみすけ」商品化許諾件数					
										指標名（2）							
										指標説明							
区分		単位		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成29年度					
				実績		計画		計画 (目標値)		実績		計画		対計画比(%)			
指標	活動指標（1）		1 日		281		306		302		303		303		100.0		
	活動指標（2）		2 日		142		150		115		130		112		86.2		
	成果指標（1）		3 人		44,866		50,000		53,014		60,000		59,861		99.8		
	成果指標（2）		4 件		37		40		47		50		43		86.0		
総事業費・コスト把握	事業費		5 千円		79,764		95,868		91,883		90,763		88,982		平成29年度 予算執行率(%) 98.0		
	(内) 投資的経費等		6 千円		147		918		810		0		190		76		
	(内) 委託費		7 千円		62,129		77,823		76,323		74,581		73,960		69,995		
	職員数	常勤職員数		8 人		2.28		2.00		2.24		2.00		2.66		2.40	
		再任用職員数		9 人		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	
		非常勤職員数		10 人		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00	
	人件費	常勤職員分		11 千円		19,943		17,494		19,179		17,124		22,852		20,618	
		再任用職員分		12 千円		0		0		0		0		0		0	
		非常勤職員分		13 千円		2,935		2,935		2,971		2,971		2,944		2,944	
	総事業費 (5+11+12+13)		14 千円		102,642		116,297		114,033		110,858		114,778		109,184		
	単位当たりコスト (14-6)÷1		15 円		364,751		377,056		374,911		365,868		378,178		360,092		
	財源	受益者負担分		16 千円		0		0		0		0		0		0	
		国からの補助金等		17 千円		0		0		0		0		0		0	
		都からの補助金等		18 千円		0		1,062		324		3,333		3,123		3,333	
その他の補助金等		19 千円		0		0		1,619		645		527		369			
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円		0		1,062		1,943		3,978		3,650		3,702			
差引：一般財源 (14-20)		21 千円		102,642		115,235		112,090		106,880		111,128		105,482			
受益者負担比率 (16÷14)		22 %		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（2）

		整理番号	102		
平成29年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		アニメーションミュージアム運営業務委託			
		アニメーションミュージアム建物総合管理委託			9,133
		他区連携事業			4,685
		なみすけの普及			2,939
		その他（アニメーションミュージアム著作権更新費、光熱水費の支出 ほか）			14,206
平成29年度の事業実施状況	(2) 事業実績	<p>杉並アニメーションミュージアムでは、外国人来館者の増加を受け、アフレコブースや館内表示の多言語化の充実を図りました。また、アニメーションミュージアムと民間事業者等との連携による企画展のほか、中野区と連携した「アニメ・サブカル地域ブランディング事業」による集客イベントや情報発信を実施しました。これらの取組により、アニメーションミュージアムの総来館者数は、平成28年度に比べて6,847人（約13%）、このうち外国人来館者数は2,005人（約35%）増加し、それぞれ開館以来、最高となりました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成12年度に「アニメの杜すぎなみ構想」を策定し、アニメーションフェスティバルやアニメ匠塾（アニメーター人材育成事業）を実施するとともに、杉並アニメーションミュージアムを開設しました。平成22年度には「事務事業等の外部評価（杉並版「事業仕分け」）の評価結果を受け、一部事業の見直しを行いました。来館者数は東日本大震災を機に一旦減少しましたが、その後の展示内容の充実や積極的な情報発信により、その後は年々増加しています。「なみすけ」については、平成18年度に「すぎなみの輝き度向上」の一環で公募により選定されました。平成25年度にはデザイン使用料を無償化したことで、商品化や地域の自主団体等による無料頒布物の使用承認件数が増加するなど区内において高い認知度を得ています。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>平成29年度に実施した「杉並区産業実態調査」において、杉並アニメーションミュージアムは区民の半数以上（59%）に認知されていましたが、そのうち約7割が「行ったことがない」と回答しています。今後、区外来街者の誘客と併せて、区民に親しまれる施設となるよう、内容の充実や出張ワークショップを介して地域に発信していきます。また、施設には駐車場がなく、最寄駅（荻窪駅）から徒歩15分を要する立地から、来館者から駐車場の確保について要望をいただいています。「なみすけ」に関しては、商用利用に係る民間事業者の多くが店舗を有しないため、販路拡大の相談をいただいています。</p>			
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>アニメは、世界に誇る日本の文化として外国人から特に高い評価を得ており、国内では、アニメ作品の舞台となった地域を巡る「聖地巡礼」が地域活性化につながるものとして、注目を集めるなど、アニメの振興と活用は、今後も全国各地で取り組まれるものと考えられます。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を機に、外国人をはじめ、多くの観光客を誘致する上で有用なコンテンツとなることから、杉並アニメーションミュージアムへの更なる来館者増に向け、展示内容や多言語化等の充実を図るとともに、アニメを活用した地域のブランド化を近隣自治体と連携の上推進し、より広域での情報発信と多面的な事業を展開していきます。「なみすけ」については、商品化許諾件数の増加が見込まれ、引き続き積極的な活用を図ります。</p>			
	評価と課題	<p>杉並アニメーションミュージアムは、増加する来館者数が外国人を含めて過去最高を記録したほか、全世界のアニメファンを対象とする「日本のアニメ聖地88」（一般社団法人 アニメツーリズム協会）に選定されるなど、観光施設としての認知度や評価が高まりました。今後も展示や多言語化の充実を進め、観光資源としての価値を高めて更に来街者の誘致を図るとともに、アニメ制作会社や商店街、近隣自治体等との連携を深めながら、「アニメのまち杉並」の認知度を高めつつ、地域のにぎわい創出と活性化につながる取組を進めます。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>杉並アニメーションミュージアムは、当面の間は現施設を活用していくことから、現状の事業を基本に多言語対応や展示内容の充実を図っていきます。また、引き続き、近隣自治体や民間事業者との連携により、地域の観光資源である「アニメ」の魅力を最大限活用することで、地域のブランド化を推進し、来街者誘致に向けた取組を進めます。さらに新たな取組として、WEBやSNS等の媒体を活用した多言語による情報発信の強化を図り、インバウンド等による広域的な誘客拡大を図ります。</p>			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表(1)

(00644)

事務事業名称		観光促進				款	03	項	05	目	01	事業	004	整理番号	103
現担当課名		産業振興センター		係名		観光係		連絡先電話番号		5347-9184		昨年度整理番号		100	
上位施策No・施策名										06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり		予算事業区分		既定事業	
事務事業の概要	事業開始		平成26年度		実行計画事業		目標 02		施策 06		計画事業 04		主要事業(区政経営報告書掲載事業)		
	平成29年度担当課名		産業振興センター										事業評価区分 一般		
	対象		区民、区外来街者(海外含む)、商店・事業者				根拠法令等		(1)		中央線あるあるプロジェクト実行委員会規約				
									(2)						
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)		杉並区の「良さ」「らしさ」を再発見し、地域資源として効果的にPRすることで、区外からの杉並区への来街者増を図り、持続的な「まちのにぎわい」や、チャレンジマインドのある商店・事業者の「商機」を創出する。				活動指標		指標名(1)		中央線あるあるプロジェクト新聞PR回数				
								指標説明		すぎなみ学倶楽部掲載頁数					
								指標名(2)							
								指標説明							
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)		中央線あるあるプロジェクトを推進する。観光事業補助を行う。(東京高円寺阿波おどり)すぎなみ学倶楽部を運営する。観光PR(観光情報発信事業、杉並体験ツアー事業、すぎなみ観光大使事業)等を推進する。フィルムコミッションを推進する。杉並ナンバーの周知・普及を図る。無料Wi-Fiの環境整備を行う。				成果指標		指標名(1)		共催イベント集客数					
								指標説明		高円寺フェスの来場者数					
								指標名(2)		すぎなみ学倶楽部アクセス数					
								指標説明		ページビュー数					
区分		単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成29年度				
			実績		計画		計画(目標値)		実績		計画		対計画比(%)		
指標	活動指標(1)		1	回	18	16	17	16	16	16	16	100.0			
	活動指標(2)		2	頁	325	192	246	192	268	168	168	139.6			
	成果指標(1)		3	人	180,000	190,000	180,000	180,000	100,000	180,000	180,000	55.6			
	成果指標(2)		4	件	518,231	620,000	558,944	630,000	613,897	640,000	640,000	97.4			
事業費		5	千円	48,622	67,157	64,428	65,642	62,557	64,445	95.3	平成29年度予算執行率(%)				
(内)投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0			特記事項			
(内)委託費		7	千円	7,611	18,283	16,662	18,131	16,251	17,258			成果指標(1)			
職員数	常勤職員数		8	人	6.49	4.00	5.27	5.00	5.50	3.60			平成29年度は荒天によりイベント来場者が減少し、実績値が計画値を下回りました。このことを踏まえ、平成30年度の目標を設定しました。		
	再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			成果指標(2)		
	非常勤職員数		10	人	1.00	1.61	1.59	1.59	1.60	1.60			平成28年度と平成29年度の実績はいずれも目標値に届かない結果となりましたが、毎年増加傾向にあります。		
人件費	常勤職員分		11	千円	56,768	34,988	45,122	42,810	47,251	30,928					
	再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0	0					
	非常勤職員分		13	千円	2,935	4,725	4,724	4,724	4,710	4,710					
総事業費(5+11+12+13)		14	千円	108,325	106,870	114,274	113,176	114,518	100,083						
単位当たりコスト((14-6)÷1)		15	円	6,018,056	6,679,375	6,722,000	7,073,500	7,157,375	6,255,188						
財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0	0					
	国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0	0					
	都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0	0					
	その他の補助金等		19	千円	0	4,311	5,431	4,750	5,996	4,750					
	特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	4,311	5,431	4,750	5,996	4,750					
	差引:一般財源(14-20)		21	千円	108,325	102,559	108,843	108,426	108,522	95,333					
受益者負担比率(16÷14)		22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（2）

		整理番号		103	
平成29年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		「にぎわい・商機」創出プログラム(中央線あるあるプロジェクト)			
		観光事業補助(東京高円寺阿波おどり)			2,000
		すぎなみ学倶楽部の運営			9,073
		観光PR(観光情報発信事業、すぎなみ観光大使事業等)			6,881
		その他(杉並ナンバーの周知・普及 ほか)			603
平成29年度の事業実施状況	(2) 事業実績	区内中央線4駅周辺に集積する魅力を発信する「中央線あるあるプロジェクト」において、新聞等の広告掲載やWEB・SNSによる情報発信、シンボルイベント(高円寺フェス)の共催、多言語飲食店マップの作成等を行いました。また、区民目線で区内の魅力を紹介する「すぎなみ学倶楽部」の運営、旅行者が杉並区を体験できる「杉並体験ツアー」や外国現地で区をPRする「すぎなみ観光大使事業」の実施、インフルエンサーの活用や機内誌への記事投稿により区の観光情報を発信する「観光情報発信事業」などに取り組みました。			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	平成24年度に商店街振興を図る観点から都市観光事業の取組を開始しました。平成25年5月には「にぎわい・商機」創出プログラム「中央線あるあるプロジェクト実行委員会」を発足し、平成26年度には新たに専管組織(観光係)を設置しました。近年、訪日外国人旅行者は年々増加しており、平成29年の訪日外国人旅行者数は約2,869万人(対前年比約19.3%増)と過去最高を更新しています。さらに観光庁では訪日外国人旅行者数を平成32年に4,000万人、平成42年に6,000万人を目標に掲げています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が目前に迫る中で、区が目指す「にぎわい・商機」の創出・上積みを図っていくため、インバウンドを見据えた観光事業を進めていきます。			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	区は大きな観光資源に乏しい側面がありますが、「中央線あるあるプロジェクト」に対して、様々な事業者から事業連携に関する問い合わせや相談が寄せられています。また、観光事業全般的に、近隣区市などから事業の内容やノウハウなどに関する問い合わせ等が寄せられています。さらに、商店街イベントや集客力の高い店舗に関する新聞・WEB等を通じた情報発信、商店街との連携によるフラッグの掲揚を通じて、地域での「あるあるプロジェクト」の認知度が向上し、商店街からの依頼や連携の要請が寄せられています。			
	今後(3~5年)の予測と方向性	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、外国人旅行者の日本ブーム等により、国内外から東京を訪れる旅行者の大きな増加が見込まれます。また、外国人旅行者の志向が「モノ(消費)」から「コト(体験)」へ変化していることは、「文化」コンテンツを豊富に有する区にとって、「にぎわい・商機」を創出する好機となつていきます。このことから、情報発信の強化・拡大に加え、「高円寺阿波おどり」など杉並ならではの文化を体験するプログラムを官民協働により実施するなど、充実した事業展開を図ることで、一層の来街者増に繋げていきます。			
評価と課題		区は観光面での認知度が低く、宿泊施設や大型観光資源が少ない状況にあります。この中で、「中央線あるあるプロジェクト」や「観光情報発信事業」、「すぎなみ観光大使事業」など区の魅力を積極的かつ多角的に発信することで、外国人旅行者が増えたことなど、一定の成果が見られます。今後は、こうした効果を可能な限り数値化した上で、多面的な検証のもと、より効果の高い事業を実施し、更なる「にぎわい・商機」の創出につなげていきます。			
翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持			
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)・実施主体の見直し			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が目前に迫り、「にぎわい・商機」の創出に関する千載一遇の好機が訪れます。この中で、より効果的な事業展開と協働による事業推進に努めていく観点から、「中央線あるあるプロジェクト」や「すぎなみ学倶楽部」など、多様な媒体を活用した、より効果的な観光情報発信を実施していきます。また既存資源の活用・組み合わせを基本に、様々な場面で「旅行者のニーズ」の把握に努め、民間ベースでの事業展開及び地元商店街との連携を基本とした、より戦略的かつ効果的な来街者の誘致に取り組みます。			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表(1)

(00364)

事務事業名称 景観まちづくり			款 05	項 01	目 02	事業 003	整理番号 388			
現担当課名 みどり公園課		係名 みどりの計画係		連絡先電話番号 3593		昨年度整理番号 380				
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分 既定事業				
事業開始 平成元年度		実行計画事業 目標 02 施策 06		計画事業 03						
平成29年度担当課名 まちづくり推進課						事業評価区分 一般				
対象 区民、事業者、区		根拠法令等 (1) 景観法 (2) 都市計画法								
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)		活動指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)		景観新聞(景観録)の発行部数 景観まちづくりイベントの参加者数					
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)		成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)		杉並区のまちを美しいと思う人の割合 区民意向調査による					
	景観に対する区民の意識を高め、杉並らしい景観づくりに取り組む風土を醸成する。魅力あるまちなみを創出する。みどり豊かな杉並のまちを歩くことにより、新しいまちの魅力を見出し、まちに親しみを持つ人を増加させる。		景観条例、景観計画に基づく届出や事前協議等により、みどり豊かな美しい住宅都市を将来にわたり継承する。杉並景観録の発行や景観まちづくりイベントを開催する。史跡指定された荻外荘の建物一部公開イベントや荻外荘懇談会の運営により荻外荘の復原・整備に向けた機運醸成を図る。知る区ロードの一環としてまち歩きのためのすぎなみ景観ある区マップを発行する。							
区分		単位	平成27年度実績	平成28年度計画	平成28年度実績	平成29年度計画(目標値)	平成29年度実績	平成30年度計画	平成29年度対計画比(%)	
指標	活動指標(1)	1 部	6,000	5,000	6,000	6,000	6,000	6,000	100.0	
	活動指標(2)	2 人	1,500	2,000	1,000	2,000	1,000	2,000	50.0	
	成果指標(1)	3 %	78.9	80	78.4	80	78.8	80	98.5	
	成果指標(2)	4								
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	14,072	8,570	7,258	5,611	4,680	5,606	平成29年度予算執行率(%) 83.4	
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 荻外荘懇談会の開催が2回から1回に変更になったこと、保存建物の調査研究委託が対象がなかったために未執行などで執行率が低くなっています。	
	(内)委託費	7 千円	10,637	2,919	2,402	1,997	1,521	1,168		
	職員数	常勤職員数	8 人	3.99	3.50	3.70	3.50	3.60		2.25
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.10
		非常勤職員数	10 人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		0.50
	人件費	常勤職員分	11 千円	34,901	30,615	31,679	29,967	30,928		19,330
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0		443
		非常勤職員分	13 千円	1,468	1,468	1,486	1,486	1,472		1,472
	総事業費(5+11+12+13)	14 千円	50,441	40,653	40,423	37,064	37,080	26,851		
	単位当たりコスト((14-6)÷1)	15 円	8,407	8,131	6,737	6,177	6,180	4,475		
	財源	受益者負担分	16 千円	76	0	0	0	0		0
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		0
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0		0
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計(16+17+18+19)		20 千円	76	0	0	0	0	0		
差引:一般財源(14-20)		21 千円	50,365	40,653	40,423	37,064	37,080	26,851		
受益者負担比率(16÷14)	22 %	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	388
平成29年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		すぎなみ景観ある区マップ「和田・堀ノ内編」等の発行・増刷	60,500	件	2,306
		杉並景観録(第23号)の発行	6,000	部	311
		荻外荘イベント案内等業務委託			120
		荻外荘懇談会の開催	1	回	84
		その他(大田黒公園周辺地区景観まちづくりニュースの発行ほか)			1,859
平成29年度の事業実施状況	(2) 事業実績	杉並景観録の発行 6,000部、荻外荘懇談会の開催 1回、景観条例による届出書の提出 199件、景観まちづくりイベントの開催、「すぎなみ景観ある区マップ 和田・堀ノ内編」等の発行・増刷 60,500部			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	事業開始当初から景観の普及啓発を主な事業として取り組んできましたが、平成21年度に景観行政団体となり、平成22年6月から杉並区景観計画の運用を開始し、景観法に基づく届出制度等による景観づくりを始めました。平成28年6月に社会情勢の変化等を踏まえ、杉並区景観計画及び杉並区景観条例の一部を改正しました。景観は、杉並のまちに魅力を感じる指標の一つとして考えられ、区民意向調査で杉並区のまちを美しいと思う人の割合も7割を超え、着実に増加しています。ある区マップは毎年増刷するほど好評なことから、区民のまちに対する関心が高まっていることが伺えます。			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	杉並の面影を伝える歴史的建物や貴重な樹木など、まちなみの保全が求められています。派手な色彩の建物や経済性重視の建物に対しては、計画段階から良好なまちなみにふさわしい計画に誘導していく必要があります。また、規制だけではなく、区民、事業者が自ら景観に関心を持ち、自主的に景観づくりに取り組む機運醸成を図ることが大切です。ある区マップについてはまち歩きに便利と好評です。			
	今後(3~5年)の予測と方向性	景観法に基づく行為の届け出の中で、特に良好な施工例を集めた事例集を発行することで、さらに、事業者や区民の景観に対する意識を向上させます。また、区民がある区マップを通してまちに出ることで、まちに関心を持ち杉並区の良好な景観づくりに取り組むようになります。			
評価と課題		平成28年6月、杉並区景観計画を改定し運用を開始しました。このことにより景観審議会専門部会の参考意見への対応見込みの報告を事業者に求め、同部会にフィードバックするなど、より実効性の高い制度となりました。これからは、区民、事業者に良好な景観づくりとはどのようなものなのかを視覚的に理解してもらうため、景観の良好な事例を集めた事例集を作成し見える化を図ります。荻外荘については、荻外荘懇談会の運営や建物内の一部公開イベント等の実施により荻外荘の復原・整備に向けた機運醸成を図ります。			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持		
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	平成28年6月、杉並区景観計画を改定し運用を開始し、普及啓発の充実を図ることで、区民、事業者の景観への関心を高め、自主的な景観づくりの機運醸成を図ります。平成30年度は良好な景観の事例を集めた事例集を発行し、誰でもわかる景観に配慮したまちづくりを示し、景観まちづくりを推進します。荻外荘については、荻外荘の復原・整備に向けた機運醸成を図るため、荻外荘懇談会の運営、各種イベントの開催や寄附金募集等に取り組めます。			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（1）

（00368）

事務事業名称		都市再生事業				款	05	項	01	目	02	事業	007	整理番号	392	
現担当課名		市街地整備課		係名		荻窪まちづくり担当係				連絡先電話番号	3382		昨年度整理番号	384		
上位施策No・施策名											06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり		予算事業区分		既定事業	
事務事業の概要	事業開始	平成23年度	実行計画事業 目標 02 施策 06 計画事業 01				主要事業（区政経営報告書掲載事業）									
	平成29年度担当課名	まちづくり推進課										事業評価区分	一般			
	対象	荻窪駅周辺地区				根拠法令等	(1)		都市計画法、都市再開発法							
							(2)		杉並区まちづくり基本方針、杉並区まちづくり条例							
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	杉並区が「住宅都市」としての価値をさらに高めていくためには、区内最大の交通結節点である荻窪駅周辺地区の活性化が不可欠である。地域特性を活かした商業の活性化や生活利便性の向上などを図り、にぎわいや魅力あるまちづくりを進める。				活動指標	指標名（1）		地元住民や各種団体、関係事業者等との打合せ回数							
						指標説明		普及啓発活動等の回数								
						指標名（2）		指標説明								
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	「住宅都市杉並」にふさわしい荻窪駅周辺地区のまちづくりを進めるために、まちの課題等を整理・共有するとともに、地域住民との協働により、まちづくりに対する機運の醸成を図り、将来のあるべき姿を描くための検討を進める。地域住民との協働により、荻窪駅周辺地区の特性を活かしたまちづくりを進める。南北分断の解消と都市機能の更なる強化に向けて幅広い観点から検討を行い、国や都、鉄道事業者等と協議・調整をしながら、まちづくりを進める。				成果指標	指標名（1）		駅周辺まちづくり計画等の策定数								
						指標説明		平成23年度からの累計策定数								
						指標名（2）		指標説明								
区分		単位	平成27年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度	平成29年度							
			実績	計画	実績	計画（目標値）	実績	計画	対計画比（%）							
指標	活動指標（1）	1 回	19	15	16	18	35	37	194.4							
	活動指標（2）	2 回	3	3	3	2	1	2	50.0							
	成果指標（1）	3 件	0	1	0	1	1	2	100.0							
	成果指標（2）	4														
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	7,232	19,126	15,910	12,132	10,575	15,411	平成29年度予算執行率（%）	87.2						
	（内）投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項							
	（内）委託費	7 千円	5,137	16,303	13,282	8,875	7,613	12,680	委託料の落札差金による執行残が生じたため。							
	職員数	常勤職員数	8 人	3.77	3.00	3.63	3.00	3.68	3.00							
		再任用職員数	9 人	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00							
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00							
	人件費	常勤職員分	11 千円	32,976	26,241	31,080	25,686	31,615	25,773							
		再任用職員分	12 千円	4,139	0	0	0	0	0							
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0	0							
	総事業費	14 千円	44,347	45,367	46,990	37,818	42,190	41,184								
	単位当たりコスト	15 円	2,334,053	3,024,467	2,936,875	2,101,000	1,205,429	1,113,081								
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0							
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0							
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0							
		その他の補助金等	19 千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計		20 千円	0	0	0	0	0	0								
差引：一般財源		21 千円	44,347	45,367	46,990	37,818	42,190	41,184								
受益者負担比率	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	392
平成29年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		荻窪駅周辺総合交通戦略策定調査委託	1	件	7,474
		その他(管理経費、消耗品購入費ほか)			3,101
	(2) 事業実績	<p>区内最大の交通結節点である荻窪駅周辺地区について、南北地域間の分断解消と都市機能の更なる充実を図るため、地域住民が主体となった「荻窪まちづくり会議」から提案された「荻窪駅周辺まちづくり構想」を踏まえ、「荻窪駅周辺まちづくり方針」(平成29年4月)を策定しました。その具体化に向けた取組の一つとして、「(仮称)荻窪駅周辺都市総合交通戦略」を策定するため、荻窪駅周辺における総合的な交通のあり方と必要となるハード・ソフトの取組などに関して、交通事業者等と連携して調査・検討を進めました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成23年度は、これまでの荻窪駅周辺まちづくりのあり方を検証するとともに、区の中心拠点として活性化を図るためのまちづくりの方向性や事業手法等を検討する「荻窪駅周辺まちづくり基礎調査」を行いました。平成24年度は、多くの区民から意見を頂くための区民意見交換会や荻窪まちづくり懇談会の開催、まちづくりの課題解決のヒントとするためのアイデアコンペなどを開催しました。平成25年度からは、荻窪駅周辺の地域住民の方々为主体となった「荻窪まちづくり会議」の設立・運営等の支援を行い、平成27年12月、「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」が区に提案されました。平成28年度は、「荻窪駅周辺まちづくり方針」の検討に取り組み、平成29年4月に策定・公表しました。平成29年度からは方針の具体化に向けた取組を推進します。</p>			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>鉄道や幹線道路による市街地の分断解消や、駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上などが挙げられる一方、良好な住環境については、維持・保全を求める声も多くあります。</p>			
	今後(3~5年)の予測と方向性	<p>「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化に向けて、(仮称)荻窪駅周辺都市総合交通戦略を策定し、その取組を鉄道事業者等と連携・協力して推進します。併せて、まちづくり方針の具体化に向けたもう一つの取組である、荻窪駅南側エリアの歴史的・文化的資源を生かした観光まちづくりについても、調査・検討を行います。</p>			
	評価と課題	<p>「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化に向けた取組を推進するためには、区民・事業者・行政の連携が必要となっています。そのため、方針における、まちの将来像と目標、その実現に向けた取組の方向性について、区民・事業者・行政で情報共有を図り、それぞれが担う役割と責務を果たしながら、協働して荻窪駅周辺のまちづくりを進めていきます。また、その取組の一つである「(仮称)荻窪駅周辺都市総合交通戦略」について、平成30年度の策定に向けて、行政と交通事業者、警察などの関係者が協力し検討を進めていきます。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化に向けた取組の一つである(仮称)荻窪駅周辺都市総合交通戦略の推進には、区、地域の方々、交通管理者、交通事業者等が、目標を共有し、一丸となって取り組む必要があります。そのためには、杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会の場を活用した意見交換を行い、また、地域の方々や土地所有者等への積極的な情報発信とそれらの方々からの意見・情報収集を行う必要があります。さらに、まちづくり方針の具体化に向けた取組の推進を図るためには、荻窪駅南側エリアの歴史的・文化的資源を生かした観光まちづくりについても、調査・検討を進める必要があります。</p>			

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（1）

（00369）

事務事業名称		多心型まちづくりの推進				款	05	項	01	目	02	事業	008	整理番号	393	
現担当課名		市街地整備課		係名		拠点整備係		連絡先電話番号		3383		昨年度整理番号		385		
上位施策No・施策名										06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり		予算事業区分		既定事業		
事務事業の概要	事業開始	昭和44年度		実行計画事業		目標 02		施策 06		計画事業 02		主要事業（区政経営報告書掲載事業）				
	平成29年度担当課名	まちづくり推進課										事業評価区分		一般		
	対象	区民及び駅周辺地域来訪者 再開発事業などの民間再開発を行おうとする者 鉄道事業者				根拠法令等		(1)		都市計画法、都市再開発法						
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	駅周辺地域を中心に、地域特性を活かしたにぎわいと多彩な魅力のあるまちづくりを進める。 民間再開発事業等を支援する。				活動指標		指標名（1）		駅周辺まちづくりに関する懇談会・意見交換会等の開催数						
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	ハード施策とソフト施策の連携を強化し、地域特性を活かしたまちづくりを推進する。 駅周辺の交通利便性・安全性を高めるための施設整備を推進する。 駅に直結する自由通路、付属するエレベーター等を維持管理する。 まちづくりの相談や指導を通して、地権者の組織化等の活動を支援する。 助成制度を活用し、民間再開発事業の活動を支援する。				指標説明		指標名（2）		駅周辺まちづくりに関するニュース等の発行回数 平成26年度まで「駅周辺の現地調査・打合せ回数」						
区分		単位	平成27年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度	平成29年度							
			実績	計画	実績	計画（目標値）	実績	計画	対計画比(%)							
指標	活動指標（1）	1	回	3	4	8	8	8	100.0							
	活動指標（2）	2	回	0	3	2	2	2	100.0							
	成果指標（1）	3	件	0	1	0	1	1	100.0							
	成果指標（2）	4														
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	14,434	15,486	8,656	15,787	12,607	14,759	平成29年度 予算執行率(%)	79.9					
	（内）投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	（内）委託費	7	千円	12,513	9,717	6,897	11,741	10,782	8,035	「ハード・ソフト連携による駅周辺まちづくり」について、地区ごとに情報共有や課題対応等を図りましたが、予算を要する内容の取組が少なかったことから、執行率がやや低くなっています。						
	職員数	常勤職員数	8	人	3.56	3.00	3.37	3.00	3.44	3.00						
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
		非常勤職員数	10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11	千円	31,139	26,241	28,854	25,686	29,553	25,773						
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0	0						
		非常勤職員分	13	千円	0	0	0	0	0	0						
	総事業費 (5+11+12+13)	14	千円	45,573	41,727	37,510	41,473	42,160	40,532							
	単位当たりコスト (14-6)÷1	15	円	15,191,000	10,431,750	4,688,750	5,184,125	5,270,000	5,066,500							
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18	千円	0	0	0	0	0	0						
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計 (16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0							
差引：一般財源 (14-20)		21	千円	45,573	41,727	37,510	41,473	42,160	40,532							
受益者負担比率 (16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

# 平成30年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	393
平成29年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		中杉通り沿道等基礎調査業務委託	1	件	5,184
		阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくり方針策定支援業務委託	1	件	1,566
		西荻窪駅周辺まちづくり方針策定にむけたワークショップ運営等業務委託	1	件	497
		観光まちづくりシンポジウムの開催	1	回	329
		その他(エレベーター保守管理委託、事務費ほか)			5,031
平成29年度の事業実施状況	(2) 事業実績	<p>阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくりでは、説明会及び区民等の意見募集を経て、平成29年7月に「阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくり方針」を策定・公表するとともに、同方針の重点的取組の一つである「中杉通り沿道の安全・快適で魅力的なまちづくり」に向けて、沿道交通量等の基礎調査を実施しました。また、西荻窪駅周辺まちづくりでは、まちづくり方針策定に向けた取組として、ワークショップを2回実施し、計48名の地域の方々に参加いただきました。さらに、地域資源を活かした駅周辺のにぎわいや活性化を促すため、観光まちづくりシンポジウムを開催し、211名の参加がありました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>事業開始当初は、駅舎の橋上化や市街地再開発事業等に代表される駅周辺整備を事業の中心にしていました。現在は、それらハード面での整備に加え、ソフト面で連携していくまちづくりの取組により、各地区の特性や課題に応じたまちづくりを進めています。</p>			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>再開発の事業施行者からは、事業推進に向けての助成金の拡充を望む声があります。その一方で、再開発においては、周辺区域に様々な変化が起こることが予想されるため、近隣住民からは、住環境等に及ぼす影響が大きいとの意見があります。</p>			
	今後(3~5年)の予測と方向性	<p>マンション等の老朽化が進みつつあり、今後はマンションの建替え等の課題がより顕在化することが予想されます。また、近年の建設費の高騰等により、市街地再開発等の事業を取り巻く環境は厳しくなっていくことが予想されます。今後は、地権者等との意見交換を重ねながら、駅周辺整備と共同建替え等の手法の検討を行い、ハード面とソフト面の取組が一体となったまちづくりを進めていきます。</p>			
評価と課題		<p>阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくりでは、まちの将来像やその実現のための取組の方向性を示す「阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくり方針」を策定しました。今後は、方針を区民・事業者等と共有するとともに、中杉通り沿道の安全・快適で魅力的なまちづくりに向けて地域や関係機関との意見交換を進めるなど、連携を図りながら方針の具体化に向けて取り組んでいきます。西荻窪駅周辺まちづくりについては、地域の方々を対象としたワークショップを実施し、まちの課題や特長、将来像などについて、意見の把握に努めました。今後も引き続き、町会・自治会、商店会等との意見交換などにより、地域の意向や動向を踏まえながら、まちづくり方針策定に向けた取組を着実に進めていきます。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)		
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくりについては、引き続き、策定されたまちづくり方針の具体化に向けた取組を進めていく必要があります。また、西荻窪駅周辺まちづくりでは、都市計画道路補助132号線の整備に係る事業スケジュール等が具体化し、用地測量説明会やオープンハウスなどが開催されてきたことに伴い、今後、地元におけるまちづくりへの関心が、これまでよりも高まることが予想されます。こうした地域の動向や意向を踏まえ、まちづくり方針策定に向けた取組を進めていく必要があります。さらに、現在、まちづくりのきっかけとなる様々な動きがみられる富士見ヶ丘駅周辺などを含め、地域の変化のきっかけを的確に捉え、駅周辺まちづくりに取り組んでいく必要があります。</p>			